

九州ネット

2月27日
第7号

九州体育・保健体育ネットワーク研究会

佐賀県開催 <むつごろうラウンド>



H24.2.18(Sat)

佐賀大学



雪が舞う寒い一日でしたが、県外から18名、県内から23名の先生方の参加をいただき、熱いむつごろうラウンドになりました。体育について語り合える多くのお仲間がお集まりいただき、感謝・感謝です。また、情報交換会も多数ご参加いただき、三次会まで、熱く熱く体育について語り明かすことができました。

1 トピックス：学習評価最前線 ～効果的・効率的な評価に向けて～



「学習活動に即した評価規準の作成と十分満足(A)の判断基準を考える」というテーマで佐藤 豊教授から、学力の要素と観点別評価との関係や発達の段階を踏まえた評価方法及び評価規準の検討の必要性について解説をしていただきました。これまでおおむね満足(B)に届かないものを努力を要する(C)とし、Cに対してどのような手立てをとり、Bにするかを考えることが多かった気がします。そのためAの姿が教師間で共通理解できていなかったのではないかと思います。Bの評価規準の設定だけを考えるだけではなく、Aについてもその学びの姿をしっかりとイメージすることの大切さを感じました。

2 実践報告：「夢と希望をもたせる保健の授業づくり」

9月に開催された保健学習協議会で紹介された、3年間の保健学習の授業びらきとしての、1年生の保健学習のスタートの1時間目に設定した実践事例と平成20年度～22年度学力の把握国研指定校の伊万里市立伊万里中学校の「傷害の防止」の実践を紹介しながら、保健の授業づくりについて考えてみました。子供たちの「生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するために、何を身につけ、何を理解させるのかをしっかりと考え、その手立てと支援の充実を図ることが、知識の習得はもちろん、思考力・判断力・表現力等の向上を図る保健学習につながるとお話をさせていただきました。



3 模擬授業：体育理論「スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴」



本課の指導主事が模擬授業を行いました。高校1年生のオリンピックとドーピングの内容でしたが、授業を構想する段階で中学校と高等学校の内容の違いを明確に出すことができず、すっきりしないままに当日を迎えました。授業研究会の中で、佐藤先生から「高等学校の体育理論の解説に書きぶりは、ポジティブな面とネガティブな面を合わせている。したがって、ネガティブな部分を押さえつつスポーツはいいものなどであるという押さえ方にする必要がある。」と解説していただき、中高の指導内容の接続と違いが明確にすることができました。 模擬授業：県体育保健課学校体育担当 副島指導主事

4 授業研究：「スポーツのエキスとミネラルたっぷりの体育理論の授業づくり」



体育理論の中学校での授業実践を基に、理解させたい内容とそれに対する手立てや課題の提案と模擬授業について、香楠中学校の高木先生のコーディネートでディスカッションをしました。グループ討議では活発に意見が交わされ、中高の接続や小学校との関係、抑えるべき内容とその手立てが明確になりました。

実践発表：伊万里中学校 林先生、鳥栖西中学校 丸野先生

次回 ファイナルラウンド！

3月10日(SAT) 10:00～

保健体育授業づくりシンポジウム in kanoya
～九州から全国へ 学校体育の充実に向けて～



(報告：ふくい)